

卒業生のことば

少しずつ春の訪れを感じる今日のよき日に、私たち卒業生のために、このような盛大な卒業式を開いていただき、誠にありがとうございます。

私たちは、マスクやフェイスシールドが欠かせなかった中での6月の暑い日に入学しました。耳が痛くなったり、補聴器・人工内耳に紐が絡まったりと大変なことも多くありましたが、久しぶりに友だちに会えたうれしさは今でもはっきりと覚えています。給食も離れて食べたり、思うようにおしゃべりができなかつたりした日々も、懐かしい思い出となりました。

2年生では、やはたや公園でバーベキューごっこをしてあそびました。久しぶりにみんなと近い距離で一緒に笑い合いながらあそぶことができ、とても嬉しかったことが思い出に残っています。

3年生では、学習発表会の劇「6人の冒険」で、みんなで力を合わせてカレーを作る場面を演じました。役になりきって友だちと気持ちを合わせる楽しさ、演じることへの面白さを感じ、とても心に残る経験となりました。

4年生では、初めて委員会・クラブ活動に参加し、先輩と一緒に楽しく意見を出し合ったり相談したりしながら活動しました。先輩と関わる中で、仲が深まり活動がどんどん楽しくなっていました。

5年生では、自然教室に行きました。初めての友だちとの宿泊学習、自分たちで役割りを決め、責任をもって行動すること、友だちと助け合うことの大切さを学びました。

6年生では、修学旅行で広島・宮島に訪れました。千羽鶴を原爆の子の像にささげ、平和の大切さを深く感じました。そしてホテルの部屋でみんなと過ごした時間は、仲がさらに深まり、小学校生活の中で1番の思い出になりました。

小学部での6年間を通して、私たちは「友だちを思いやること」や「笑顔で楽しむこと」の大切さを学びました。

家族や先生、たくさんの方々が毎日私たちを見守り、励まし、支えてくれたおかげで、今日この日を迎えることができました。本当にありがとうございます。

5人で積み重ねてきた思い出の一つひとは、私たちのとても大切な宝物です。

今日、私たちはこの中央聴覚支援学校小学部を卒業し、新たな一歩を踏み出します。これまで学んだことを胸に、それぞれの夢に向かって歩んでいきます。

令和8年3月13日

大阪府立中央聴覚支援学校小学部 卒業生一同